様々な困難を抱えた方の日常生活支援事業

ＮＰＯ法人　神戸の冬を支える会

１，　事業の目的、趣旨

アルコールや薬物依存症、ギャンブル依存症、認知症、発達障害など様々な問題や生きづらさを抱え、生活費の浪費や近所とのトラブル、地域からの孤立、家賃の滞納、万引の繰り返しなど日常生活に困難をきたす方に対して、生活破綻を防ぎ、安心して日常生活が送れるような具体的な支援活動を通じて問題の本質を見抜いて解決を図る。

２，　事業の方法

〇制度の谷間に落ちて支援が行き届かない現状

① フォーマルな制度の枠組だけでは支援しきれない問題を抱えた人を支援
② 関係機関と連携しながらインフォーマルなサポートを組み合わせて支援
③ 困難を抱えた方の生活と人権を守っていくことが必要
④ 過去３年間の事業「刑事施設釈放者の生活再建と再犯防止のための事業」の成果と課題を踏まえての事業
⑤ 食糧支援。金銭管理、住居確保支援、刑事施設釈放時の支援など

３，　具体的な活動内容

①Ｓさん（７０歳代）の場合

車上生活を送る中で車検切れの車の運転で逮捕されたことを契機に支援に関わる。居宅確保、生活保護受給、金銭管理などをする中で安定した生活を送っていたが、最近配食サービスが置いたままになっていると連絡があり自宅訪問。健康状態が悪化し倒れているところを発見、救急搬送。

②　Ｙさん（４０代男性）の場合

ギャンブル依存、アルコール依存、精神疾患で保護受給中であるが、保護費、年金は受け取って 2-3 日で消費。家賃滞納を繰り返すため金銭管理契約を結び、各種支援を実施。社会的逸脱行動が多く、行政や近隣からも見捨てられそうになり、失敗を繰り返しながらも、生活を維持。

③　６０歳代の女性の場合

ストレスから殺人未遂事件を起こす。裁判で情状証人。服役中も連絡を継続。刑務所、保護観察所、弁護士、不動産会社などの協力を得て、満期後居宅確保。知的能力はボーダーで日常生活のすべてのステージで様々な支援を実施し、生活を支えている。

④A さん（70 代）の場合

認知症が進む中、何者かに騙されて年金を奪われホームレス生活に。万引を繰り返し服役。服役中に当会と刑務所と連携し釈放後の生活について協議。満期釈放後、すぐに住居確保、介護保険手続。現在は介護保険を利用しながら当会が金銭管理をする中で多くの方に支えられ居宅生活を送っている。

⑤　　その他の事例

心身を病み無収入になる中で住宅ローンが支払えず自殺未遂。入院中に病院から支援依頼。競売となった住居の片づけ、新たな住居の確保支援、生活保護申請、債務整理などの支援。

成果と今後の課題

約 100 人の方に延べ数百回の支援の実施。

① 支援制度もなく、支援が受けられないことにより生活が成り立たない方へのサポートの必要性。制度の枠で考えるのではなく、対象者のニーズからの発想。特に社会的に理解を得にくい方々であるからこそ支援が必要。

② 生活や権利を守るためにはフレキシブルに行動し、何でもするというスタンスの重要性。関係機関への同行、手続支援、食糧支援、訪問など。

③ まず行動。関係機関との連携。信頼関係は実際の支援活動を展開する中で生まれ、支援する中でさらに支援の輪が広がる。

④ 制度の谷間を埋める活動は社会的に必要な活動。放置による複雑化、深刻化を防止。支援を手探りでも実行していく中で新たな社会的に必要な制度創出への手がかりとしていくことを目指す（ソ―シャリアクション）。